



原発ゼロへのカウントダウン in かわさき 中原平和公園に1300人が参集・デモ!

明日3月11日は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災と大震災に伴って人的に引き起こされた東京電力福島第一原発事故から丸8年の日となりますが、被災地では現在も避難生活を強いられている被災者が福島県民だけでも42,000人に上ると言われています。

福島第一原発事故の収束・廃炉のめどは見えないまま日々増えつづける膨大な量の汚染水処理の費用などを含めた廃炉のための費用は81兆円に上るとの試算も示されました。



本集会前の舞台上で演奏するプロムカルテット



川崎の歌声合唱団が本集会前に披露する合唱

川崎ではその3月11日を翌日にした本日10日に第8回目となる“原発ゼロへのカウントダウン in かわさき”を川崎市の中原平和公園で開催し約1300人の市民・民主諸団体が参集し集会後のデモ行進を成功させました。

この行動は、川崎市内の多様な団体や個人が「原発ゼロ社会を実現する一点」で力を合わせ毎年開催されています。神奈川県南支部からは赤羽特別執行委員が参加しました。

いま世界では福島第一原発事故を契機に原発政策を見直して再生可能な自然エネルギーに転換する国が増加しています。

原発への依存度が高いフランスでも2030年までには再生可能な自然エネルギーの比率を電源全体の40%に引き上げるとしています。

一方、日本の安倍政権は福島第一原発事故前と同様に“原発を電力のベース電源”と位置づけて莫大な費用がかかることが明白となっている原発依存を止めようとしません。

このこと一つとっても安倍政権を一日も早く退陣させる必要があります。統一地方選挙・参議院選挙で審判を下すときです。



原発ゼロのプラカードを掲げる集会参加者